

区 分	内 容
会 議 名	県都まえばし創生本部第1回有識者会議
日 時	平成27年6月2日（金）10時30分～12時00分
場 所	本庁舎11階会議室
出 席 者	<p>【委員】 (産) 曾我委員、横堀委員、黒岩委員、 (学) 星委員、窪田委員、大森委員 (官) 松本委員、深津委員、松井委員 (金) 南委員、武者委員、小林委員 (労) 鈴木委員 (言) 鎌田委員 (住民) 木暮委員、梅澤委員、角田委員 ※道下委員及び斎藤委員は都合により欠席</p> <p>【前橋市】 市長、副市長、政策部長、政策推進課長、政策推進係長</p>
議 事	<p>1 事務局説明 (1) 地方創生の概要と本市の人口動向分析 (2) 前橋市版人口ビジョン及び総合戦略の全体イメージ (3) 県都まえばし創生本部の組織体系 (4) 前橋版人口ビジョン及び総合戦略の構成及びスケジュール</p> <p>2 自由討議 各委員からの意見</p>

発言内容	
政策部長	<p>ただいまから、県都まえばし創生本部第1回有識者会議を始めます。私は、本日の司会を務めます、前橋市政策部長の藤井と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
	<p>—開 会— それでははじめに、県都まえばし創生本部、本部長の山本市長からご挨拶申し上げます。</p>
市長	<p>—挨拶— 皆様、おはようございます。有識者会議がこの前橋から始まることとなりました。政府は、危機的な人口減少の対応を地方に委ねております。そして、1兆円を超える高額な予算を投じて、人口減少への対応を応援しております。政府が地域を応援する条件として、「市役所の力だけではだめだ」ということです。産・学・官・金・労・言・市民の総合力でプランニングする市に対して国は応援するというところでございます。</p> <p>今回の第1回有識者会議で、前橋市の人口減少に歯止めを掛ける組織を作っていたいただき、国からの支援をいただきながら、我々は進んで参りたいと考えております。他の自治体も大いに参考にしている本市の取り組みでございます。皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。</p>
政策部長	<p>—委員挨拶— 次に、本日は第1回目の会議ということで、初めて顔を合わせる方もいらっしゃると思いますので、自己紹介をお願いしたいと思います。なお、本日、2名の方が欠席でございます。1名は前橋市医師会の道下様、もう1名は前橋市男女共同参画審議会の斎藤様でございます。それでは、お手元の名簿に基づきまして、前橋商工会議所会頭の曾我様から順に自己紹介をお願い申し上げます。</p>
曾我委員	<p>産業界から出させていただいております、前橋市商工会議所の会頭であります、曾我でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
横堀委員	<p>前橋市農業協同組合で常務理事を務めております、横堀と申します。よろしくようお願いいたします。</p>
黒岩委員	<p>J R東日本高崎支社長の黒岩です。よろしくお願いいたします。</p>
星委員	<p>おはようございます。前橋工科大学の学長をしております、星と申します。よろしくお願いいたします。</p>
窪田委員	<p>群馬大学で教育・企画・国際交流担当をしております、窪田です。よろしくお願いいたします。</p>

大森委員	共愛学園前橋国際大学副学長をしております、大森です。よろしくお願いいたします。
松本委員	ハローワーク前橋の所長の松本と申します。よろしくお願いいたします。
深津委員	群馬県前橋行政県税事務所の所長をしております、深津と申します。よろしくお願いいたします。
松井委員	おはようございます。前橋市都市計画審議会の会長をしております、松井と申します。よろしくお願いいたします。
南委員	おはようございます。金融の分野からということで、群馬銀行本店営業部長の南と申します。よろしくお願いいたします。
武者委員	おはようございます。日本政策金融公庫前橋支店長の武者と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
小林委員	群馬県信用保証協会の専務理事をしております、小林と申します。よろしくお願いいたします。
鈴木委員	皆さんこんにちは。労働団体連合で前橋市を担当しております、鈴木と申します。よろしくお願いいたします。
鎌田委員	おはようございます。言論の分野から参加させていただきました、上毛新聞社事業局長の鎌田です。よろしくお願いいたします。
木暮委員	前橋市民生委員・児童委員連絡協議会の副会長を務めております、木暮久江と申します。よろしくお願いいたします。
梅澤委員	前橋市社会福祉協議会の会長を務めております。梅澤と申します。よろしくお願いいたします。
角田委員	前橋市自治会連合会の会長を仰せつかっております、角田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
政策部長	ありがとうございました。続きまして、事務局の自己紹介をさせていただきます。
副市長	おはようございます。副市長の細野と申します。よろしくお願いいたします。
政策推進課長	おはようございます。政策推進課長の谷内田と申します。よろしくお願いいたします。

政策推進係長	<p>おはようございます。同じく政策推進課の原田と申します。どうぞよろしく お願いいたします。</p>
政策部長	<p>—設置要綱の制定及び座長選出— 続きまして、「4 設置要綱の制定・座長選出」に移りたいと思います。設置要 綱につきましては、事務局から概要をご説明いたします。</p>
政策推進課長	<p>事務局の政策推進課長の谷内田です。座りながら説明させていただきます。 まず、別紙の「県都まえばし創生本部有識者会議設置要綱」をご覧ください。 設置要綱第2条第1号においては、所掌事務については、「地方人口ビジョン及 び地方版総合戦略の策定に係る助言及び意見交換に関すること。」となっております。 第4条「委員の任期は、委嘱の日から会議終了の日までとする。」となっ ております。第5条で、「有識者会議に座長を置き、市長が指名する。」ことと させていただきました。なお、この設置要綱については、平成27年6月2日 から施行させたいと考えております。よろしくお願いいたします。</p>
政策部長	<p>ただいまの事務局の説明について、ご質問及びご意見等がございましたら、 よろしくお願いいたします。</p> <p>(質問及び意見なし)</p>
政策部長	<p>よろしいでしょうか。設置要綱につきましては、本日から施行となります。 よろしく願い申しあげます。次に、座長選出に移ります。ただいま制定いた しました、設置要綱第5条第1項におきまして、「座長は市長が指名する。」と 定めておりますので、山本市長から指名させていただきます。</p>
市長	<p>はい。前橋商工会議所会頭の曾我孝之様にお問い合わせしたいと思います。よろ しくお願いいたします。</p>
政策部長	<p>ただいま市長から曾我様を指名させていただきましたが、曾我様よろしいで しょうか。</p>
曾我委員	<p>はい、かしこまりました。よろしくどうぞお願いいたします。</p>
政策部長	<p>お引き受けいただきまして、ありがとうございます。どうぞよろしくお願 いたします。</p>
政策部長	<p>—議 事— 続きまして、次第の「5 議事」に移りたいと思います。ここからの進行は 設置要綱第5条第2項によりまして、曾我座長さんをお願いします。</p>
曾我座長	<p>ただいま座長にご指名をいただきました、曾我でございます。ふつつかでは ありますが、よろしくお願いいたします。</p>

政策推進課長

それでは、早速議事に入ります。まず、最初に事務局から説明をお願いします。

それでは、事務局から説明させていただきます。関連がありますので、資料1から資料4まで一括して説明させていただきます。資料1「地方創生の概要と本市の人口動向分析」をご覧ください。

まず、地方創生という言葉の皆様は既にご存知だとは思いますが、地方創生を一言でまとめさせていただきますと、「人口減という現実に直面した危機感のある初めての本格的な地域活性化」となります。地域活性化という言葉は、色々な場所で使われていましたが、今回の地域活性化はこれから説明させていただきます、「人口減」という本当の現実に直面した本当の地域活性化となります。

元総務大臣の増田氏が座長を務める「日本創成会議」が2014年5月に公表した「増田レポート」と呼ばれる報告書では、「2040年には896の自治体が消滅可能性都市に。」という内容が書かれております。レポートに呼応するように、平成26年12月に「まち・ひと・しごと創生法」ができました。そのときの国の資料では、「今から85年後、日本の人口は、2100年に5000万人弱になる。」と書かれております。石破大臣も、「地方創生のための時間が残っていないという危機感と今回の地方創生が失敗すれば国が潰れるという切迫感がある。」と言っております。

3ページをご覧ください。平成26年12月に国が出した資料を見ていただきたいと思います。ページタイトル「我が国における総人口の長期的推移」の補足説明となりますが、現状が継続することを前提とすると、2100年には日本の総人口が5000万人弱まで減少し、明治末頃の人口規模になり、高齢化率は41.1%になると言われております。原因と言われているのが、出生率が1.13と極端に低い東京に人口のほとんどが集まってしまっていることで、原因も課題も現時点で分かっております。繰り返しになりますが、原因は、出生率が1.13である東京に人口が集まっているからだと言われております。

5、6ページについては、国のリーサスと呼ばれる情報分析システムから出てきた前橋市のリアルな数字です。2010年から2040年に掛けての前橋市の人口減少率は、17.1%で、全国平均は約16%だと見ております。6ページは、人口数の予測です。2040年には17.1%減少して、約28万人になるだろう、高齢人口（65歳以上）は、31.4%増えるだろうと言われております。

7ページをご覧ください。2100年に日本の人口が5000万人になると同様に、非常に衝撃的なグラフとなっております。こちらが前橋市の人口ピラミッドです。2040年に5歳ごとの人口ピラミッドを作りますと、一番多い層は、65歳から69歳までの女性です。三番目に多い層は、90歳以上の女性となります。長生きをすることは非常に良いことですが、今の社会の皆さんが、このまま年を取っていくとなると大変な人口構造になると予測されております。

8ページから10ページについては、前橋市の人口動態を示しております。特に9ページに記載がありますように、2005年から自然増の減少と社会増の増加により、人口がマイナスに転じました。そして、2008年から自然増

減数がマイナスとなりました。自然増減数とは、亡くなった人と生まれた人を差し引いた数を言います。社会増減数とは、転入者から転出者を引いた数です。10ページを見ますと、どの年代が多く転出しているのか、転入しているのかが分かります。ご覧の通り、高校卒業時に前橋市から転出していて、大学を卒業してある程度転入してくるといのが分かります。

11、12ページは、前橋市からどこへ転出するのかを示しております。青色は転出超過、赤色は転入超過を示しております。基本的に転出先は首都圏が多いのですが、「なぜこの町に転出するのか。」というところをこれから分析することになると思います。転入についても近郊から転入するというのは分かっているのですが、「なぜここから転入してくるのか。」ということを入人口ビジョンの中で詳しく分析していくことになります。

13ページで今までの話のまとめを少し載せてあります。人口減の要因は、人口が東京一極集中していることによるものです。東京の出生率を上げるか、東京から出生率の高い地方に人口を持ってくるかのどちらかということになります。その中で、前橋市がすべきことは、人口の一極集中をしている東京からどれだけの人間を引っ張ってこれるかということです。その一番の元は雇用となります。先ほど市長の挨拶がありましたが、雇用を作るために「産・官・学・金・労・言」の皆様が意識を共有して、同じ指標で考えることを国から求められております。

14ページは、国の資料となっておりますが、国から再三言われていることは、「自治体経営から地域経営に移ってほしい」ということです。今まで前橋市役所は、「前橋市役所」を経営しておりましたが、そうではなくて「前橋市」をきちんと経営してほしいと言われております。その核となるのが、「自治体を核としたローカルアベノミクス（ローカル10,000プロジェクト）」、「Iターン・Jターン・Uターン等の支援」そして、「恵まれた子育て環境や介護サービス供給能力を活かし、様々な年代層で移住を推進」ということとなります。また、「税収増に直結する地域の経済構造改革に着手」とありますが、それは15ページ「地域経済イノベーションサイクルと核とした地域の経済構造改革」で説明がされております。基本的には、地域金融機関や産業界等と一緒に色々仕事を作っていきたいと思っております。

16ページは、「地域エネルギーシステムと地域内での資金循環」と書いてありますように、どこの地域もこの図表の通りとなっているわけですが、前橋市が電気を買う場合には、地域外から電気を買っております。どこの自治体も当初予算と同じくらいの電気を電力会社から買っております。16ページで示している資料はどういうことかと言いますと、当初予算と同じ金額を電力会社から購入することにより、その金額の7割、8割、9割は原油産出国にお金が行っています。だとすれば、その10%でも地域でエネルギーを作ることができれば、前橋市で言えば、約260億円のお金が地域内で回ることになります。地域で10,000事業程度の立ち上げを目指す、ローカル10,000プロジェクトや地元でエネルギーを作る、地域エネルギーシステムを推進してほしいと国から言われております。

17ページでは、国が求めている長期ビジョンと地方が作るものです。国が考えているのは、人口減少問題の克服や成長力の確保です。

18ページについては、前橋の取組みです。平成27年1月に「県都まえばし創生本部」を作りました。その構成は、創生本部、本日の有識者会議、専門部会、ワーキンググループという形になっております。先ほど市長が言いましたとおり、国は4,200億円を地域に配分しました。前橋市も5億700万円もらっております。また、国が求めているのは、地域で「人口ビジョン」と「地方版総合戦略」を作れということです。言葉は気をつけなければいけません、お金は全地域に配分されました。後は、自治体でどういう計画を作るかと言われております。これからの自治体は、「エンジンとコスト」、つまり、どれだけ国に役立つ自治体となるかという形でと言われており、総合戦略は非常に大事なものとなっております。

最後19ページについては、総合戦略についてまとめたものですが、雇用創出を考えなくてはならない、地域エネルギーも考えなければならない。何よりも大切なことは、具体的な施策を作ってほしいということです。「産・官・学・金・労・言」が共有した計画であり、重要業績評価指標と呼ばれる「KPI」を作り、なおかつ、作った計画だけでなく、5年の中でPDCAサイクルの流れをきちんと作ってほしい。そういった計画を作ってほしいと言われております。「自治体経営から地域経営へ」ということで、「総合戦略に基づく新交付金の実施」ということで、今までの補助金から総合戦略に入ったものに対して補助金をつけるよという流れになっております。

資料3をご覧ください。こちらは、「前橋版人口ビジョン・総合戦略の全体イメージ」となっております。先ほど、言いましたとおり、皆さんと前橋市が作っていくのが総合戦略になるわけですが、人口ビジョンと総合戦略のイメージとなっております。人口減を大きな病と例えると、人口ビジョンは診断に当たります。ある程度のことは前橋市も分かっております。この年代がなぜ転出が多いのかという細かいところまで人口ビジョンの中で確認させていただきます。この地域のこの年代が特に外に出ているとか、この地域から特に人が沢山入っているとか分析させていただき、そこから対応を取りたいと考えております。病気で例えると治療をするのが、総合戦略となりまして有識者会議で総合戦略の目指す方向性の明確化を求めて参りたいと考えております。

続きまして資料4ですが、「県都まえばし創生本部の組織体系」について図を描かせていただきました。市長を本部長とする創生本部がありまして、今回の有識者会議の皆様から助言や意見交換をさせていただきながら、物事を作って参りたいと思います。その下には、①しごと、②転入促進・転出抑制、③結婚・出産・子育て支援、④都市づくりという専門部会を作りまして、その下にワーキンググループを作りました。また、今回は「産官学金労言」との共有が必要ですから、専門部会の大きなトピックスの中にも一緒に皆様と検討して参りたいと考えております。

資料5をご覧ください。こちらが、前橋版人口ビジョン及び総合戦略の構成となっております。さきほど申しましたとおり、人口の動向分析を行い、将来展望を行います。本市の地域特性も調べますし、将来の人口推計について色々な可能性について考えて参ります。総合戦略については、赤色で囲まれておりますが、「基本目標の設定」「基本目標と基本的方向」等を検討させていただきたいと思っております。

<p>曾我座長</p>	<p>続きまして資料6をご覧ください。まだ、目安となりますが、こちらが策定スケジュールとなっております。今回は、7月を予定しておりますが、その後、計5回予定しております。それでは、事務局の説明を終わりにさせていただきますと思います。</p> <p>ただいまの事務局説明に対しまして、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。</p> <p>—自由討論—</p> <p>続きまして、「(2) 自由討議」に移ります。もう少し、時間を取らなくてはいけなかったのではないかなとは思いつつも座長を務めさせていただいております。事前にご意見を頂いている方が13名おります。その方々から順番に資料7「各委員のご意見」の要点についてお1人3分目安にお話をいただければと思います。まず、最初に、JR東日本の黒岩高崎支社長からご意見をお伺いしたいと思います。</p>
<p>黒岩委員</p>	<p>要点として4点ございます。1点目は、「コンパクトシティを目指す」ということです。コンパクトシティには定義が色々あるようですが、鉄道事業者という立場で話しをさせていただくとすれば、公共交通や二次交通を中心にコンパクトな町を目指すのがいいのではないかと、ということですが。</p> <p>2点目は、都市の基幹軸または都市軸を定めて、鉄道と道路の交通軸をきちんと連結させながら、駅周辺の人の流れを持ってくることを考えたらいいのではないかと、ということですが。分かりやすくいえば、前橋駅、前橋中央駅、県庁前の人の流れを考えたらいいのではないのでしょうか。まずは、背骨をしっかりした方がよろしいかと思っております。</p> <p>3点目はローカル駅周辺エリアに居住環境の整備を図ることがよろしいのではないのでしょうか。4点目は、県内から訪れる交流人口を市内に誘導するために周辺自治体との連携も必要になってくるのではないかと、思っております。</p>
<p>曾我座長</p>	<p>どうもありがとうございました。続きまして前橋工科大学の星委員からお願いいたします。</p>
<p>星委員</p>	<p>よろしくお願ひいたします。細かい話はこれからの会議において出てくると思つたので、今回は大きくまとめました。本学の場合、教育・研究体制において、学科や教員で前橋市と共に取り組んでいる事業がございます。そういう事業を一つ一つ丹念にこなしていくということが、一番重要なのではないかと、思つております。また、「教育と研究の体制を柔軟に組み立てていく」というのは、これは、前橋市を中心に取り組ませていただいている事業がございます。例えば、公募型の研究や今年4月から空き家の対策についての研究も工科大で仕事として引き受けることとなりました。</p> <p>本学には学科は6つあります。各学科の先生が各分野で前橋に貢献するようなことを考えております。これからの一つの目標として、解決できるものは、直接伺つて答えていくと考えております。</p>

次に方針についてですが、本学の特色といえるかも分かりませんが、市内・県内よりも、むしろ県外から集まる学生の方が多いです。前橋工科大学に限っていいますと、その他地域から流入するほうが多いです。それをどうやって生かそうか考えております。前橋工科大学としてできることは、前橋又はこの地域でどれほど魅力的なのかということです。学生が大学で学んだら地元に戻るにしてもしばらく前橋で働いてほしいと思います。そういった部分が大学の存在意義と関わってくると思います。そのためにも市と連携していきながら、学ぶ、働く、暮らしていく場所として我々が具体的に提案できることを提案していきたいと思います。地域の公立大学ですから、地域に入っていく形でお答えしていきたいと思います。

曾我座長

どうもありがとうございます。続きまして、群馬大学の窪田委員さんをお願いしたいと思います。

窪田委員

群馬大学としましては、「人の流れの新たな創出」という観点で大学ができることと思います。群馬大学は、県内からの入学者が50%、そして、県内への就職者は、全体の就職者のうちの50%強となっております。群馬県への就職という意味では、若干のプラスとなっております。「人の流れ」という意味で群馬県、前橋市でどのようなことができるかと考えたときに、一番としては、大学が活性化して県外からも人が沢山来る、そして、県内に就職していく、生活をしていくという流れを考える必要があります。次に前橋市に住みたい、生活したいと思うときの前橋市のイメージというものが非常に大切になってきます。「水と緑と詩のまち」と前橋を表す言葉があると思いますが、それが、実際に実感できるような、その言葉から連想されるものが、前橋市内にあるという状況が作っていく、そういうことも前橋をより魅力ある町へと変えていき、市外の人々が前橋に住んでみたいと思わせることができるのではないのでしょうか。

自由意見のところには、色々なものを書かせていただいているのですが、考え方としては、いろいろな地域の活力を作っていくとするとときに、源になるのは、そこに住む住民自身です。だから、住民自身がやる気を引き出す引き金を引くような市の施策として考えていただければと思います。

曾我座長

どうもありがとうございました。引き続きまして共愛学園前橋国際大学大森副学長さんをお願いできればと思います。

大森委員

本日はよろしくお願いいいたします。資料7の4ページをご覧ください。まち・ひと・しごとの創生を考えるとときに、市の立場で考える上で難しいなと感じるところは、県との関係です。県内の他市から人を持ってくればいいのかということ、必ずしもそういうわけではないでしょうから、市と県との関係を考えて難しいなと思いつつも「大学として何ができるか」という観点で提案・意見を書くようにということでしたので、そのようにさせていただきました。

理念としましては、当然大学ですので、若い世代の「学び⇒働き⇒生み⇒育て⇒学び」というサイクルが醸成される街づくりです。そのためには、市内（県

内)の大学への市内18歳進学率の向上、留まりと流入を増やしていくことが必要です。市内(県内)大学等卒業者の地元就職率を上げていくことです。

もう一つ考えたのは、地元の大学を出た人達が地元に残って、その子ども達が地元の小学校に入っていくという流れが大事なわけで、そここのところを一つの指標としてできないかと考えています。この目標を達成するための基本的な方向としては、高校と大学の接続事業、地元の学生を受け入れている大学への支援、他県の周知活動。周知活動は、一大学だけでは難しいので、連携して取り組んでいくことが必要です。それから、大学・産業界への地域産業人材要件をきちんと定義付けをして、その要件にあった人材育成を大学で行うというプロセス作りです。大学と産業界と関係強化をし、地元人材採用枠をきちんと用意していただけるようにご相談をしていきたいと思ひます。また、地元大学に通う際に、総務省もパッケージとして用意しておりますけれども、地元出身者に対する奨学制度の設けることです。本学の場合、学生の85%が群馬県民で、卒業生70%が群馬県に就職しております。この流れをきちんと保ちつつ、考えていきたいと思ひます。

6ページに移りますが、前橋のデータを見ますと18歳前後のところで人口が流出していることは明白ですので、いかに大学が食い止めていくことができるかが課題となります。ただ、群馬県内の入学定員は、18歳人口に対して3~4割程度しか定員を用意していません。大学進学率が50%になったとしてもまだ全員を受け切れる定員となっております。専門学校を含めればもっと増えると思ひますが、学生全員を受け入れるためには、もっと大学が頑張らなければならないと考えておりますが、どう支援をしていくかが必要となってきます。

それから、まち・ひと・しごとのパッケージの政策パッケージのうち、総務省・文科省の事業について市としてもお考えいただけるのかについては、ご相談させていただきながら、取り組んでいきたいと思ひます。本学については、県については、COC+の取り組みを進めようと考えておりますので、市と県という二重の枠組みの中でこの政策パッケージに取り組んでいけるかどうか、後ほどご相談させていただきます。以上です。

曾我座長

どうもありがとうございました。それでは、前橋公共職業安定所松本所長お願いいたします。

松本委員

前橋公共職業安定所、ハローワーク前橋です。資料の7ページをご覧ください。理念についてはいろいろ書いてあるのですが、前橋のまちの活性化を目指すということで、それにはどうするのかということですが、私もハローワークの業務であります、雇用・しごとのことを中心に考えさせていただきました。目標としましては、「前橋に安定した雇用を創出し、若い世代も含めて、前橋に住み、働く環境を整備する。」となります。基本的方向としましては、2つ考えてみました。

まず1つは「前橋に仕事をつくり、安心して働けるようにする。(魅力ある就業の機会の創出)」ということです。内容としましては、「地域産業の競争力の強化」ということで、優位性を備えた競争力のある産業分野選定する必要があ

ると思います。それと、「企業の地方拠点の強化」ということで、企業移転・本社移転等推進して、就労の拡大を図り、全体の雇用のパイを拡大していくことと、新規採用を含めた地方採用の推進ということです。また、産業集積や企業誘致等の実現には、人材の質と量が重要となりますので、「優秀な人材の確保と人材育成の促進」推進していくことが重要です。また、「多様な働き方の確保」ということで、若者、女性、高齢者、障害者等の活躍の推進ということで働きやすい職場を作っていくということです。そういうニーズを把握する必要があると思います。

もう1点としましては、「前橋への新しい人の流れをつくる。」ということです。先ほど申しました、人材確保の部分になりますが、地方移住とかU I Jターンの推進や具体的なイメージという観点で実際に前橋に住んだ場合、仕事、住まい、暮らしの情報をセットにして、提供して、イメージを浮かぶような情報提供が必要だと思います。また、Uターンという形で県外に出て行った学生に戻ってもらうことも対策も必要ですが、地元に進学してもらうということと、それに伴い、卒業したらそのまま地元就職してもらうということの促進も必要だと思います。

その他の意見としては、施策の実施については、近隣自治体との連携も重要だと思います。以上です。

曾我座長

どうもありがとうございました。続きまして前橋行政県税事務所深津所長にお願いできればと思います。

深津委員

私どもが用意しました資料については、理念や目標、提案をお書きしてはおりません。私どもが有識者会議に参加するというのは、県でも総合戦略を作成しておりますので、それとの整合性を図ることが私の役目だと思っております。そのため、県の様子をお話しします。県でも「群馬の未来創生本部」を立ち上げておりまして、人口減少対策の観点で、これまでの県の施策の総点検をしております。今後の群馬の未来創生のための施策を部局横断的にオール群馬で推進するために立ち上げたものです。

総合戦略の策定を検討していくにあたり、3つの視点を挙げております。「群馬で暮らしたくなる。」「群馬に住み続けたくなる。」「群馬で家族を増やしたくなる。」というこの三つを基本として再点検を行っております。

県では、総合計画「はばたけ群馬プラン」が今年で最後となっておりますので、次期総合計画を立てることとなっております。そこでこの人口ビジョンを含めた地方版総合戦略を一体的に策定することを検討しております。県としての総合戦略、総合計画の理念は、これから示されると思います。

また、県の総合計画・総合戦略を策定するにあたり、前橋行政県税事務所でも地域別の施策を考えていくという役割を担っております。そして皆さん方からご意見を伺うために地域の懇談会を設置したいと思います。地域の意見を聞きながら、県の計画に反映させていきたいと考えております。予定では、夏以降になる見込みです。

県としましても、前橋市と同様、総合戦略を策定して参りますので、きちんと連携して取り組んで参りたいと思います。県都まえばし創生本部や県でも実

	<p>施をする地域の懇談会を活用しながら、有識者会議の皆様、市当局と意見交換をした上で互いにいい計画を立てられるように努めて参りたいと考えております。以上です。</p>
曾我座長	<p>ありがとうございました。続きましては、前橋都市計画審議会の松井会長にお願いしたいと思います。</p>
松井委員	<p>第六次前橋市総合計画改訂版に即して、都市計画マスタープランの改訂版が策定されました。その中に、「コンパクトなまちづくり」、「環境負荷の少ないまちづくり」、「美しい景観のまちづくり」、「活力あるまちづくり」、「安全安心なまちづくり」の5項目が挙げられておりますが、この5項目を実現することが、前橋市の都市計画の理念であり、これらを具体化していく施策が必要であるとと考えております。</p> <p>次に、コンパクトなまちづくりとコンパクトシティは若干違うものであるという認識を私は持っております。現在、前橋市の都市の実態を見ますと、かなりスプロール（都市が周辺に無秩序に広がる）をしておりまして、ある一定の面積の中に人口を集積させていくようなコンパクトなまちづくりが絶対的に必要であると考えます。なお、コンパクトシティというのは、住む人がいたり、働く人がいたり、学ぶ人がいたり、訪れる人がいたり、若い人がいたりと様々な人々の集まる狭い生活範囲のことを指すものと理解をしています。</p> <p>前橋市の中心市街地に限っては、コンパクトシティ化を進めていくことが、首都圏からの移住者を増やす要因にもなるだろうと考えております。これが、目標1の都心核のコンパクトシティ化であります。</p> <p>都心核の他に、地域核・地域拠点・生活拠点というようなコンパクトな拠点を作りましょうというのが、都市計画マスタープランで謳われているわけですが、その方向性は間違っていないと考えております。そうした核を幹線道路で結んでいくのが、現在のスプロールしたまちの状況を再編する重要な役割を担うであろうと考えております。しかしながら、富士見地区や宮城地区など地域拠点のコンパクトシティ化までは現在のところ達してはおりません。そこで、特定の地場産業を持ち就労機会が得られるような施設の検討が必要であると考えます。</p> <p>また、北関東自動車道ができ、駒寄スマートインターチェンジという物流拠点ができましたので、そこへ外部からの産業誘致を進めていくことが、雇用機会を生み出すことにつながると考えます。</p> <p>最後になりますが、マスタープランの改訂版の中に、「美しい景観のまちづくり」を掲げておりますが、若い人が首都圏から戻ってくるときに、東京と同レベルの文化を持ち、経済的に安定して暮らせるまち、心豊かに暮らせるまちというデザイン的な魅力を強く主張すべきであると考えます。</p>
南委員	<p>理念としまして、「前橋市の強みを生かしたしごとを創出することで安定した雇用を確保し、若者が将来の希望を持って働けるまちづくりを目指す」を掲げております。</p> <p>次に、目標ですが、2つに絞りました。1つ目の目標は、「地域特性を活かし、</p>

安定した雇用を創出する」ことです。基本的方向としては、鉄道や高速道路網が整備されている、地震の震源地が極めて少ないなどの地域特性を活かし、県外企業誘致の促進、バックアップ拠点としての誘致促進、新ビジネス・新技術・新製品・新商品開発等の支援、創業・第二創業の支援、6次産業化の支援、若手経営者の育成、企業経営を補佐する中核人材の育成、専門人材派遣による既存企業の経営課題等支援、海外進出・事業展開支援が挙げられます。

2つ目の目標は、「都市の魅力を高め、新たな人の流れをつくる」ことです。基本的方向としては、雇用機会増加による定住人口の増加、事業継承者や事業の中核的人材の誘致、首都圏からの移住促進、観光資源の活用による交流人口の増加、地元企業の情報提供充実等による若年層の人口流出抑制が挙げられます。

武者委員

理念ですが、「他の都市にない独自の魅力を持った県都まえばしづくり」を挙げさせていただきました。

前橋の特徴である「首都圏に近い」、「住みやすい」というところを最大限活かしていくことが重要であります。東京の一極集中を是正するための具体的な解決策をアピールしていくことが必要になってきます。例えば、本社・工場の移転、ベンチャーヘブン、東京圏からのシニア・シルバー層の定住、子育て・教育への支援といったものが必要になるだろうと考えます。

次に目標ですが、多様な人たちが前橋に集まり、住みたい、住み続けたいと思うためには、その人たち一人一人が活躍できるまちづくりが必要になってきます。そのためのしごとづくり、学生が活躍できる場づくり、シニア・シルバー世代のボランティアやソーシャルビジネスなど、多様な取り組みが求められます。

もう一つ、県都である前橋市の強みとして、県内市町村への情報発信機能を有することが挙げられます。全国展開組織の本店機能が集中しているため、そのネットワークが十分に活用できるというのも強みではないかと考えます。

地域を活性化するためには、それぞれの実行部隊が必要です。その人たちを、ここにお集まりの各界のネットワークで支援をしていくことが重要になると考えます。

小林委員

目標としては、創業、イノベーション、事業承継等を積極的に後押しするということです。ご存知のとおり、メガネ、豆腐、カラオケ、ウクレレ等、日本で活躍する企業が多く存在し、かなりの底力があります。加えて、銀行をはじめ、創業を支援する仕組みができつつあります。こういったものを起爆剤にしていくことが重要です。

自由意見ですが、「コト消費」や「地域ストーリー」を大切にすることが重要です。個々の製品やサービスが別々に提供されるのではなく、一連の体験として提供し、認識させる仕組みを作ることが求められます。前橋市にはグリーンドーム、県庁、前橋南モール（コストコ・日本最大級の蔦屋・イケア）、温泉施設など多くの資源があります。しかし、それらの良い素材が有機的に結びついていません。例えば、イギリスには2階建てバスで域内を周遊させる仕組みがありますが、市内を有機的に周遊・回遊させるための仕組みを構築することが

<p>木暮委員</p>	<p>重要であると考えます。</p> <p>前橋市民生委員児童委員連絡協議会では、668名の委員が活動しておりますが、地域に根ざして、高齢者の福祉、こどもの福祉、心身障がい児者の福祉に取り組んでいます。これからも、こどもから大人まで安心して暮らせる福祉のまちづくりを目指して努力してまいりたいと考えております。</p>
<p>梅澤委員</p>	<p>前橋市社会福祉協議会では、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を使命として、様々な事業を行っています。特に、地域福祉活動に関する事業では、「ささえあう地域づくり」を基本目標として、「ふくしのまちづくり事業への支援」、「ボランティア活動と福祉教育の推進」、「見守り・支え合い事業の推進」に関する事業を、住民が主体的に行うことができるように支援しています。社会福祉協議会は、今まで培ってきた「福祉のまちづくり」の経験を活かし、また、地域福祉活動計画におけるそれぞれの事業を推進しながら、「前橋版総合戦略」の推進に貢献できると考えております。ここにお集まりの「産・学・官」また「金融・言論」の各分野の皆様とともに、お互いの活動を理解し合い、協力しながら、より元気な前橋市をつくりたいと考えています。</p>
<p>角田委員</p>	<p>防災・防犯、環境美化、健康づくり、伝統文化の継承など、あらゆる分野において十分な成果を得るためには、地域における支え合いが不可欠です。</p> <p>この支え合いを将来にわたって維持していくためには、日頃からのふれ合いやつながりを大切にしていく必要があります。</p> <p>人口減少時代を迎え、前橋市においても、自治会加入率の低下が続いており、地域活動の継続が危ぶまれます。</p> <p>地域に暮らす一人ひとりが自らの地域を見つめ直し、地域活動に参加することの大切さを再認識するとともに、自治会としても地域の特色を発揮し、住民誰もが参加したくなるような地域活動の実現に向けて努力していきたいと考えます。</p>
<p>曾我座長</p>	<p>続きますして前橋農業協同組合の横堀常務理事にお願いします。</p>
<p>横堀委員</p>	<p>はい、お世話様になります。先週末に今の役職に就任させていただいたものでして、資料等の準備ができず、申し訳ございません。</p> <p>我々は農業協同組合でございますので、農業という立場からご提案させて頂きます。地域産業、稼ぐ力を高めて安定した雇用を創出するという事です。ご承知置きのとおり、昨年米価が下落し、またTPP等があり、非常に農業情勢は厳しい環境におかれておるわけですが、安定した雇用を創出するためにも、維持という観点からも大事なかと考えております。農業従事者は、高齢化も進み年々減少しております。</p> <p>農業経営はご承知のとおり小規模で脆弱な形態が多く見られます。他産業と比べますと労働条件や就業環境が決して良好とはいいがたいと思っています。せっかく農業に興味を抱いていても、就農または就職を断念したり、就農就職をしても定着しない事例が多く見られているのが現状であります。</p>

また、農業を継承するために都会に出た若者がUターン、これらを希望する者あるいは、青年帰農者として農業に戻ってくるというのも少数ではありますが存在しております。我々といたしましては、これらの機会を逸することなく、既存の農業を維持、強化をいたしまして、安定を向上させることで、農業の担い手を確保することが必要だろうと思います。農業に魅力を感じるU・Iターン希望者に対しまして、就農機会の拡大をしていくことが地域活性化につながることを考えております。

今ある仕事を減らさないという仕事の維持も、U・Iターンを減らさないための重要な課題であると捉えてございます。そのためにも地域ブランド化の確立、これを前提とした6次産業化、農工商の連携により、まず付加価値農業と成長産業化への取り組み、さらには現状取り組んでいただいていることもございますけど、新規就農者・就業者への総合的な支援の実施など、各地の良い事例等も参考にしながら、もっともっと情報発信をして、若者・青年帰農者等に夢を与えるような、また想像がつくような情報発信も必要ではなかろうかと考えております。

われわれJA前橋といたしましては、優良たる農業を目指しまして、これらの課題に取り組んでいこうということで現在向こう三か年計画でございましてけれども第6次の中期計画の策定に取り組んでいく予定となっております。よろしく申し上げます。

曾我座長

どうもありがとうございました。続きまして連合群馬の前橋地域協議会の鈴木議長様申し上げます。

鈴木委員

他県に出張が多く、この会議に事前に資料が作れませんでした。私ども連合・労働団体は、毎年方針を作っております。それは全ての県民が安心して暮らせる地域社会の実現を活動のコンセプトとしておりまして、まさにこれも私どもの方針が本日の戦略会議に合致するのかなと思っております。

我々は勤めが終わり、地域に戻れば生活者になるということですから、生活を営む地域に活力がなければ、なかなかゆとり、豊かさというのはないだろうということで、そういったところでこういう方針を掲げて1年間通しております。

本日お披露目はしませんが、わたしども連合は、県民意識調査というのを毎年行っております。その中では1万人を超える、男女、年齢、業種、一般市民の方といった分野で1万人を超えるアンケートを行って統計を取らしてもらっています。その中では雇用・労働問題はもとより、福祉、健康、子育て、行政運営、教育、農業・林業の政策、環境、防災の課題と9つの項目に対して、色々と意見をまとめて、またそれについて各行政様に対して、提言をさせていただいております。

直近では前橋市の方でも山本市長に政策提言をさせていただいて、ご回答も3月に示していただいたところでございます。そういったところベースに、今後細かい点でも発言していきたいなと思っております。

ただ1点だけ、今日、自由に話をさせていただけるのであれば、私どもは労働条件の底上げ、また向上というところをベースに運動を展開しております。

れども、今、労働法制については、いろいろと改訂が入りそうな話がございます。そういった意味では、先ほど雇用の話がありましたが、雇用イコール安定というところでは、若干今後の法制が企業誘致やなにやらと、とにかく雇用創出に向けての大きな足かせになるかもしれません。我々も注視をしながら、この中でさらに議論踏まえた中で施策の展開ができればなと思っております。以上です。

曾我座長

ありがとうございました。続きまして上毛新聞社鎌田事業局長様お願いします。

鎌田委員

お世話になります。私も実は資料をご用意できなくて大変恐縮でございます。というのも、増田レポートや、それに反対する意見、リーサスなど色んな資料を見ているうちに、見れば見るほどよくわからなくなってきたというのが現実で、ちょっと忙しさにかまけて資料をご用意できなくて大変申し訳ございません。今後またこの会議ということで、勉強させていただいて、この時点では提言と呼べるものはまとめられていないということで、非常にお叱りを受けていると思います。申し訳ございません。

その中であえてお話をさせていただくとすれば、言論という立場ではないですけれども、私がたまたま担当している中で、起業に関する事業で群馬イノベーションアワードを担当させていただいております。その中での感想ですけれども、思ったより、新しい商売をやってみたいとか、あるいはこのままでは家業が続かないとかですね、そういった方が非常に潜在的には多いということです。昨年も募集したところ100件近い応募がありました。もともと前橋は絹のまちでシルクの街まえばしということで世界的に名を馳せた都市であります。現在も日本を代表する企業家を生み出している素晴らしい土地柄ではないかということは痛感いたします。ですから、そういったことをベースに、地方創生というのは、まさに魅力の発信ということでしょうけれども、前橋は企業家とか気鋭の精神、ベンチャー、あるいはイノベーションといったところがですね、おそらく他の所に比べて決して引けをとらないという気がしております。そういったものを前橋の売りとしていって、それをキャッチフレーズとかそういったもので分かりやすい言葉で伝えることが大事と考えております。

私どもの記事をひっくり返して検索してみますと、創業とか起業、ベンチャー、イノベーションの記事が非常に多くなってきております、ここ2・3年の傾向ではないかと思っております。世の中がそういうことになってきたのかなと思っております。実感してもそうですけど、実際に事業を通じていろんな方がプレゼンテーションしたり、あるいは高校生なんかでもですね、非常に新しいビジネスアイデアとか面白いものを持っております。それを目の当たりにすると、非常に彼らも真剣に一生懸命に取り組んでいるなど痛感いたしました。その中で今回の地方創生会議の中で、メインはやっぱり仕事をつくるという部分かなと思っております。仕事をつくるという中では創業も起業もありますが、変革と言いますかイノベーション、これは言葉としてまだ難しいと思っております。「そんなすごいことは自分にはできない」という方がかなりいますが、主婦の方とか学生の素朴のアイデアがスタートになると思っております。このようないわゆる将来の

企業家を中心にいろんな個々の事例を報道していくのが一つの役割かなという風に感じております。

創業支援として、支援金だとか色々なものが出ておりますけれども、それがバラバラになっているのではないのかなと。まだ点の段階なのかなという気がします。すでに点は沢山あるものですから、それを一つの環境として、例えば、前橋に行けば金融のプロがいたり、法律のプロがいたり、あるいは投資家がいったりするような、企業家を中心としたエコシステムの構築を一つご検討したらいかがかなと思っております。シリコンバレーのツアーがあつて話を聞くと、イノベーションの地であるシリコンバレーでは、そういったエコシステムが非常にできています。民間ベースのところもあります、行政が絡んでそれをトータルでコーディネートしているところがあります。これから事業を起こす、あるいは2・3代目の方が新しいことに挑戦することを支援するエコシステムを前橋市が有していれば強みになります。

先ほど谷内田政策推進課長さんの話がありましたけれども、行政を経営するのではなく、市を経営するのだと、これはまさしくそういうことにつながってくるのかなと、今感じております。雑駁ではございますが以上でございます。

曾我座長

ありがとうございます。皆様から大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。安心して暮らせる、快適に暮らせる地域社会をつくる必要があります。そのためには、働く仕事があることはすごく大事なことです。仕事作りをどうやっていくのかということに対してもいろいろな分野から大変貴重な意見を賜りましてありがとうございます。コンパクトシティ、そして二次交通の問題等々、共通するご意見が多かったのではないかなと思います。できれば次回は2時間くらい時間取ってもらえないでしょうか。

今日のところは第1回ということで、貴重なご意見をいただいたことに感謝を申し上げます。素晴らしい人選を市当局にさせていただきましたが、まさにこういった形で各分野の思いを総合的に受け入れ、それをまとめて前橋市のマネジメント戦略を作っていくことはすごく大事ななと強く感じました。本来であれば、これから意見交換ということですが、締めめの時間が近づいております。何か特別これを言っておきたいということがあれば承ります。

山本市長

今、総合的にお話を聞いていて、勤労者が実は生活者なんだと。そうすると、雇用の場所がここになくとも、生活者としてここにいられるというアイデアを鈴木委員さんからのコメントでふと思ひまして。そうすれば、東京に仕事を持ち、暮らしは前橋という、そういう住まい方の体制。それに応じて公共交通がしっかりしていることによって、コミュニティにまた立ち戻ってくる。その中で環境や教育という暮らしを視点にする前橋の人口増加策というのがあるのかなと。なんとなく、今まで雇用中心の人口増加策に進んでおりますけれども、私なりに気づきがあったということだけ、お伝えしたかったということだけお話ししました。曾我座長のおっしゃるとおり議論できれば深まりますね。

曾我座長

最後に貴重な意見を賜りましてありがとうございました。以上を持ちまして、全ての議事を終了させていただきまして、座長の任を解かせていただきます。

政策部長	ご協力どうもありがとうございました、 曾我座長さん本当にありがとうございました。 次に事務局から事務連絡がございます。
政策推進課長	事務連絡は2点です。次回開催の日程は、7月後半を考えております。詳細につきましては1か月前を目途に通知させていただきたいと考えております。次に会議資料の公開についてでございます。資料7は市のホームページに公開する予定でございます。これの公開を望まれないという方がいらっしゃいましたら、挙手をいただけないでしょうか。 (挙手なし) そうしましたら、全ての資料をホームページに掲載させていただいて、公開させていただきます。
政策部長	以上をもちまして、県都まえばし創生本部第1回有識者会議を閉会いたします。長時間にわたりご協力まことにありがとうございました。 <p style="text-align: right;">以 上</p>